下水道展 ’23 札幌 出展報告

水コンサルタントになろう！

対外活動委員会下水道展小委員会／委員長
（オリジナル設株式会社／ DX 推進部次長）　平島昌雄

１．はじめに

夏の恒例イベントとなった下水道展も35回目となり、今回は初めて東京都より北にある都市、札幌市で開催されました。

水コン協では、８月１～４日に会場の札幌ドームにて「水コン協カフェ’23札幌」と題した展示ブースを出展し、イベントを開催しました。

本稿では、イベントの準備、運営を初めて担う北海道支部の皆さんの苦闘の様子を交えながら、出展準備から当日の実施状況をお伝えします。

２．出展目的と企画内容

（１）出展目的

下水道展での出展は、第三期中期行動計画の基本方針「人材確保支援のためのイメージアップ活動」の一環として、学生や一般来場者に向けて水コンサルタントや下水道のことを知ってもらい、身近に感じてもらうことで水コン協及び会員企業のイメージアップを図ることを目的としました。

（２）展示ブース企画の概要

展示ブースのデザインとイベント内容については、下水道展小委員会で検討しました。

①学生就活イベント

学生を集客し職業紹介を行うイベントです。

夏季休暇中の就職活動を控える学生に若手技術者が水コンサルタントという職業と働き方をプレゼンテーションし、職業的な魅力をアピールします。

本企画は、’19横浜開催からコンセプトとキャッチフレーズを変更せずに継続して実施しています。

・コンセプト：水コンサルタントという職業の魅力を伝える

・キャッチフレーズ：水コンサルタントになろう！

また、今回初めて現地と遠隔地をリモートでつなぐハイブリットで実施しました。

図－１　展示ブースのイメージ

②クイズコーナー

下水道展に初めて訪問される親子連れや一般の方にも下水道に興味を持ってもらえるようにクイズコーナーを設けました。小さなお子さんから年配の方まで幅広い世代に楽しんで頂ける水にちなんだクイズと景品を用意しました。

③展示ブースのデザイン

展示ブースは、広さが２小間（幅3.0m×長6.0m）と小スペースなため、イベント開催時の人の動線や機器の配置を念入りに検討し、仕様を決定しました。

デザインは、シンプルかつ開放感があり、気軽に入れるようなオープンカフェをイメージし作成しました。

また、昨年に続き「水と人、次世代へつなげる」というメッセージを掲げました。このメッセージには、「上流から下流に流れる水のように、下水道事業に関わってくれる人を後世につなげていく」といったメッセージも込められています。

３．運営体制と準備活動

（１）運営体制

展示ブースの企画、準備、運営は、北海道支部と本部で各委員会を設置し役割分担しました。

・北海道支部 下水道展運営委員会①（以下、運営委員会①）：主に若手、学生イベント企画の準備、運営

・北海道支部 下水道展運営委員会②（以下、運営委員会

②)：ブース訪問者の受付、クイズコーナーの運営
・北海道支部 下水道展実行委員会（以下、実行委員会）：主にベテラン、運営委員会のサポート、自治体等のブース訪問者の応対、集客活動
・本部対外活動委員会 下水道展小委員会（以下、小委員会）：出展企画、運営委員会及び実行委員会のサポート、ブース運営のサポート、集客活動
・本部対外活動委員長：出展企画へのアドバイス、ブース運営のサポート
・本部事務局：契約等の事務処理、各委員会及びブース運営のサポート

（2）出展準備

北海道支部には準備の進め方等のノウハウがなかったため、前年'22東京開催の運営委員会にも出席し、委員会の運営方法等を事前調査されました。また、東京ビッグサイトでの本番も視察され、下水道展の雰囲気や学生イベントの運営状況を把握されました。

2022年11月から小委員会と連絡を取り合い、年が明けて１月までに何度もリモート会議等で打ち合わせをし、各委員会発足に向けた下準備を行いました。特に学校への集客活動についての議論に時間を割いてアイデアを出し合いました。それでもこの時期は、札幌ドームにどれだけの来場者が集まるのか？学生は来てくれるのか？運営委員会には必要な人数が集まるのか？と不安だらけでした･･･。

2023年２月に第１回小委員会を開催し、イベント内容を決め、北海道支部を全面サポートすることで全員の意見が一致しました。

４月には、実行委員会と小委員会を合同開催し、全体スケジュールの調整、各委員の役割分担について話し合いました。

その後、運営委員会の公募を経て、５月に第１回運営委員会を開催し、いよいよ本格的に出展準備を開始しました。

運営委員会は、北海道支部が用意された会議室と本部会議室それぞれに各委員が集合し、札幌と東京をリモート会議でつないで開催しました。

運営委員会の若手技術者たちは、様々な企業から選抜された同世代の技術者との協働作業に最初は戸惑っているようでした。しかし、学生イベントで使用する説明スライドの作成で議論を交わし、本番に向けた発表練習で試行錯誤していく中で、回を重ねるごとに一体感が生まれていきました。

＜下水道展'23札幌の準備活動＞
２月15日　小委員会（１）
４月12日　小委員会（２）、実行委員会
５月17日　小委員会（３）、運営委員会（１）
６月７日　小委員会（４）、運営委員会（２）
７月５日　小委員会（５）、運営委員会（３）
７月19日　小委員会（６）、運営委員会（４）

（3）集客活動

北海道での初開催で最も苦労したのは、集客活動だと思います。何しろ北海道はこれまでのどの開催地よりも広く、また大学にとっても下水道展には馴染みがない中、どういったアプローチをすれば良いのか、最初は皆目見当がつきませんでした。

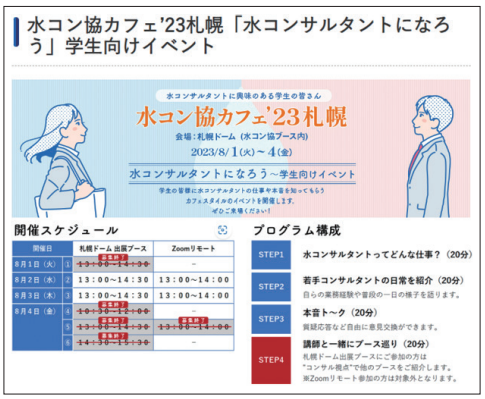
札幌ドームにアクセスしやすい大学に絞るのか？せっかく北海道で開催されるのだから、来場はできなくてもリモートで参加してもらうことはできないか？リモートが可能なら関東や全国の学校も対象にできるのではいか？と、手探り状態で集客活動を開始しました。

実行委員会ではイベント案内状を持参し、何度も大学を訪問してはPRを行い、小委員会でも関東の大学にリモートでの参加を呼びかけました。

また、水コン協ホームページには、開催案内とイベント参加者用エントリーフォームを掲載しました。

結果として、札幌市内の大学から約30名、北見市内の大学からリモートで約120名、関東の大学からもリモートで約10名の応募を頂きました。

図－２　水コン協カフェイベント案内状



図－３　水コン協ホームページのエントリーページ

4．展示内容

会場の展示ブースでは、水コン協の説明LEDパネルを展示しました。また、訪問者にはパンフレットや協会誌等の各種資料を配布しました。

LEDパネルの展示内容

・上水道コンサルタントって魅力的！
・水コンサルタントの職場
・サステナブルな社会に向けて

図－４　展示したLEDパネル（３点）

5．展示ブースの運営状況

（1）展示ブースでの役割分担

下水道展当日は、事前に決めた日毎の委員が展示ブースを運営しました。

運営委員会①による学生イベント運営、運営委員会②によるクイズコーナーの運営を実行委員会、小委員会、対外活動委員長、事務局の全員でサポートしました。

（2）来場者数

札幌での初開催となりましたが、下水道展全体の来場者数は30,450人、水コン協の展示ブースには1,059人（学生イベント31人、クイズコーナー838人）が来訪し、リモートでの学生イベント参加は123名になりました。'22東京開催との比較では、下水道展全体ではほぼ同数、水コン協の展示ブースでは約1.2倍でした。

写真－１　出展ブースの全景

写真－２　朝礼の様子

図－５　水コン協カフェのメニューボード

（3）学生向けイベントの様子

学生向けイベントでは、４日間を通して多くの学生が訪れ、またリモートでアクセスしてくれました。

「若手コンサルによる仕事紹介」では、３名の若手技術者が協力して作成した説明スライドを使い、水コンサルタントという仕事内容や業務時間の過ごし方ににについてプレゼンテーションをしました。

仕事内容の説明では、最初に水コンサルタントは下水道事業の一端を担っていることにふれ、自分がこれまでに担当した業務を例にあげ、現場調査、検討、客先協議といった一つ一つの仕事を詳しく説明しました。また、業務内容だけでなく、普段の仕事への取り組み方や一日及び一年間のタイムテーブル、出張先での楽しみ、そして顧客の課題をクリアするために一生懸命に最適解を考え、提案が採用されたときの達成感等について語り、学生自身に自分が働いている姿をイメージしてもらえるように工夫して説明しました。向学心の高そうな参加者たちは、真剣な表情で話に聞き入っていました。

「本音トーク」では、仕事の内容以外にワークライフバランスがどのようになるのか？といった働き方や社会人になっての日々の過ごし方に関心が高い学生が多いように見えました。

また、リモート参加の学生からも質問を受け、カメラ越しに回答しました。今回、初めてリモートでのイベント配信にトライしましたが、質疑応答の方法等を改善すればとても良い取り組みであったと評価しています。

「下水道展ブース巡り」では、他企業のブースでスタッフの方に製品の説明を聞き、下水道事業は様々な分野の多くの企業や団体の活動により支えられていることを実感できたようでした。

ブース巡り後のアンケート記入の時間には、「本音トーク」の続きを聞きたいという学生が多く、時間の許す限り若手技術者が社会人の先輩として真摯に対応していました。

下水道展での学生向けイベントは、運営委員会①の若手技術者にとっては準備段階から他社の技術者たちと協力してイベントを運営するという普段は味わえない貴重な体験ができたイベントになったと思います。

写真－３　学生に説明する若手技術者

（4）クイズコーナーの様子

これまでの下水道展では、主催者が企画する恒例のクイズラリーがありましたが、今回は実施されませんでした。

写真－４　クイズコーナーでの一般来場の方々

このため、水コン協では展示ブースに独自のクイズコーナーを設け、小さなお子さんから年配の方まで幅広い世代に楽しんで頂ける水にちなんだクイズと景品を用意しました。クイズの内容は、運営委員会にアイデアを出してもらい、小委員会で味付けをして作成しました。クイズが面白く難易度がちょうど良かったようで、数名の方から「クイズのコピーが欲しい」と予想外の反響を頂きました。

少し難しい問題では、親子であれこれと話し合って回答を考えて盛り上がっていました。興味深かったのは、ほとんどの子供たちが札幌市のマンホール蓋のデザインを知っていて即答できたことでした。一方、大人たちは「なんで知ってるの？」と不思議がっていました。目線が路面に近い子供たちの方が、マンホール蓋は身近な存在なのかもしれません。

６．併催行事

水コン協は、ブース出展のほかに８月３日９時30分よりドーム西棟会議室（80, 90）にて「下水道資源の農業利用の展望」の講演を行いました。

７．開催後のレビュー

（１）参加学生へのアンケート

展示ブースに来場して参加してくれた学生には、イベント後にアンケートを取りました。アンケートの回答を一部掲載します。本イベントのコンセプト「水コンサルタントという職業の魅力を伝える」を充分に果たせたと思われます。

・具体的な説明が多く、水コンサルタントではどのような活動をされているのか､社員の方はどのような業務、生活をされているのか良く分かりました。
・実際に働いている方からこの職業を選んだ理由ややりがいが聞けて就活に活かせそうです。
・就活の選択肢として水コンサルタントも考えてみようと思いました。
・水コンサルタント、面白そうだなと思えます。
・想像していたより固くない雰囲気で話が聞けて良かったです。
・若手と呼ばれる方でもそれぞれの仕事の良さや大変さ、面白さ等を持っていて、社会人はかっこいいなと感じました。

（２）運営委員の声

下水道展終了から約２ヶ月が経った９月に最後の運営委員会を開催し、反省会を行いました。久しぶりに真夏の札幌ドームで共に活動した旧友の顔を懐かしみながら、下水道展のレビューを話し合いました。

①運営委員会での準備

・運営委員同士がTeamsでやりとりできたので資料作成や発表内容の検討がしやすかったです。
・発表の練習をたくさんできたので本番はあまり緊張せずに済みました。

②学生向けイベント本番

・本音トークとは別に少人数の学生と雑談をたくさんできたのが良かったです。
・学生の興味の先は就活経験であったと感じる場面が多くありました。スライドに就活に関することを盛り込んでいたので話題を展開しやすかったです。
・クイズコーナーでは家族連れの訪問者が多く、次々世代の人材確保に向けて業界のアピールができたと思います。

③次回への提言

・Teamsでは運営委員同士のコミュニケーションは良く取れましたが、小委員会が入ってない等、連絡や確認する方法を統一すると良いと思います。
・学生の参加者数が決まってからイベント回数や１回の所要時間が変わったので、人数を気にしなくて良いリモートを充実しても良いと思います。

８．おわりに

今回は、実績がなかった札幌市での開催となり、北海道支部の方々は前年から開催前日まで不安で気が休まることがなかったことと思います。本部でも準備段階からできる限りサポートする心づもりでいましたが、いざ運営委員会を始動してみると、北海道支部の方々が主体的に活動され、準備は順調に進み、心配は杞憂に終わりました。

2023年５月から約２ヶ月間と短い期間ではありますが、実行委員会が運営委員会を見事にリードし、イベントの事前準備、集客活動、そして本番の運営までを大きなトラブルもなく無事に終えることができました。本部の小委員会からは「こんなにしっかりとイベント運営をされるようなら、来期の東京開催も北海道支部にお願いしたいくらいだ」と賞賛の声が上がりました。

運営委員会を振り返ってみると、若手技術者たちが回を重ねるごとに自発的に発言し議論を重ね､「どうすれば学生へ水コンサルタントという職業の魅力を伝えられるか？」｢学生からこういう質問が出たら分かりやすくこう回答すればよいのでは？」といった活発な意見交換がなされるようになり、数多くのアイデアを出し合うといったコンサルタントらしい議論の場となっていました。そういった中で親交が深まっているように見えました。

下水道展本番では、就活に熱心な学生が北海道各地や関東からもイベントに参加してくれました。終始和やかな雰囲気の中で若手コンサルが自分の仕事観や学生からの質問へ自らの言葉で語り、その熱意が学生にも十分に伝わったようで、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。

また、クイズコーナーでは、４日間で800名を超える来訪がありました。予想を上回る反響で、クイズコーナーのスペースでは対応が収まり切れず、景品を補充しても足りないといった嬉しい悲鳴が聞こえました。そんな混乱しそうな状況でも、率先してスタッフ総出で対応をしてくれました。

運営委員会、実行委員会、小委員会、対外活動委員長、事務局のスタッフが一丸となってブース運営を楽しみ、４日間と短い期間ではありましたが、北海道支部との水コン協ファミリーとしての絆が深まったとても貴重なイベントになりました。

最後に、本イベントの趣旨に賛同し多くの学生を快く送り出して頂いた学校関係者の皆様、イベントに参加して頂いた学生の皆様、クイズコーナーで盛り上がってくれた子供たちやご家族の皆様、ご来場頂いた皆様、ブース廻りにご協力頂いた出展者の皆様、そして運営委員会をはじめ関係者の皆様に、誌面をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました。